

平成 26 年 3 月 6 日
鉄道局技術企画課

鉄道分野における「平成 25 年度 標準化活動表彰」受賞者の決定について
～標準化活動表彰 表彰式を行います～

我が国鉄道システムの海外展開の推進のために、我が国鉄道技術の国際標準化及び国内標準化活動は重要な手段となっており、国土交通省は国際的素養と技術力を備えた人材による標準化活動の体制の充実・強化を進めています。特に今年度は、一昨年設立された国際標準化機構（ISO）の鉄道分野専門委員会（TC269）の第2回総会を日本で開催するなど日本の取組みが実を結びつつあります。

この度、6名の方々（別添参照）を「平成 25 年度 標準化活動表彰」に表彰することとし、下記のとおり表彰式を行うこととなりましたのでお知らせいたします。

参考：「標準化活動表彰」は、鉄道分野における国際標準化および国内標準化活動に対して顕著な貢献をされた方の功績を称え、表彰状を授与し、以って受賞者の更なるご活躍と関係者による標準化活動の重要性認識の増進を目的として、平成 19 年度に創設された表彰制度であり、「鉄道技術標準化調査検討会」（委員長：正田英介 東京大学名誉教授、事務局：国土交通省、（公財）鉄道総合技術研究所、別添参照）が表彰します。

【平成 25 年度 標準化活動表彰 表彰式】

日 時： 平成 26 年 3 月 10 日（月） 16 時 00 分～17 時 00 分

場 所： 主婦会館プラザエフ 8 階 スイセン
東京都千代田区六番町 15 番地
TEL03-3265-8111

取 材： 表彰式は取材・撮影が可能ですので、ご希望される方は下登録先まで電話登録をお願いいたします。
なお、当日は 15 時 45 分までに会場へお越し下さい。

※ 受賞者、鉄道技術標準化調査検討会については別添 1～3 をご参照ください。

【問い合わせ・登録先】

鉄道局技術企画課車両工業企画室 中谷、磯本
代表：03-5253-8111（内線：57864）
直通：03-5253-8524
FAX：03-5253-1635

平成25年度 標準化活動表彰 受賞者 (敬称略・50音順)

標準化活動貢献者表彰 (注1)

阿部	則次	日本軌道工業株式会社
川崎	淳司	東日本旅客鉄道株式会社
服部	鉄範	東日本旅客鉄道株式会社
森	稔	株式会社東芝
吉原	宗明	近畿車輛株式会社
若林	良明	三菱電機株式会社

注1：鉄道分野における国際標準化及び国内標準化活動に対して顕著な業績を挙げたと認められる者に授与するものです。

標準化活動奨励者表彰 (注2)

今年度は応募者なし

注2：鉄道分野における国際標準化及び国内標準化活動を推進するための活動に寄与し、かつ、今後とも継続的な活動が期待できると認められる者に授与するものです。

標準化活動表彰

別添2

鉄道技術標準化調査検討会は、鉄道分野における国際標準化及び国内標準化活動に対して顕著な業績を挙げた者を称え、表彰し、以って受賞者の更なる支援と関係者による標準化活動の重要性認識の増進を目的として、平成19年度より「標準化活動表彰」を行っています。平成23年度からは、顕著な業績を挙げた方に贈られる「標準化活動貢献者表彰」に加えて、今後の継続的な活躍を期待する方に贈られる「標準化活動奨励者表彰」が新たに設けられました。
本年度の受賞者はそれぞれ以下の通りです。

平成25年度 標準化活動貢献者表彰 受賞者 (50音順)

受賞者	所属	受賞理由
阿部 則次 氏	日本軌道工業株式会社	延べ6年間に渡り、レール締結装置等の軌道材料に関する各種のJIS 原案作成委員会の委員として、規格案の制定作業に主体的に貢献した。また、日本発の国際規格である「合成まくらぎ」の規格はJIS規格がベースとなり、このJIS原案の作成に大きく貢献した。
川崎 淳司 氏	東日本旅客鉄道株式会社	延べ3年間に渡り、IEC/TC9におけるTCNおよびマルチメディア規格の国内作業部会の委員、エキスパートとして活躍し、日本意見の採用に貢献した。 また、同規格を所属会社内の標準として積極的に活用することを検討し、実行することにも大きく貢献している。
服部 鉄範 氏	東日本旅客鉄道株式会社	延べ3年間に渡り、IEC/TC9の安全関連伝送規格改訂のエキスパートとして活躍しており、日本の意見を織り込むことに貢献し、同規格改訂の国内作業部会副主査としても活躍した。また、自動運転都市内軌道旅客運輸システム(AUGT)のJIS原案作成委員会の委員として大きく貢献した。
森 稔 氏	株式会社 東芝	長年に渡り、IEC/TC9の輸送システムの管理と指令制御(UGTMS)規格の国内作業部会委員、エキスパートとして活躍しており、日本意見の採用に大きく貢献した。また、IEC/TC9の鉄道の制御、保護システム用ソフトウェア規格の改訂作業の国内作業部会委員およびエキスパートとしても活躍しており、日本から提出した規格修正案の検討に貢献した。さらに、無線による列車制御システムのJIS原案作成委員会の幹事として規格案の制定作業に大きく貢献した。
吉原 宗明 氏	近畿車輛株式会社	IEC/TC9 RAMS規格に対して日本から提案する改訂案の検討に貢献し、IEC/TC9 完成車両の試験通則の改訂作業においてはエキスパートとして活躍し、日本の意見を織り込むことに大きく貢献した。また、国際規格審議の事務局およびJIS規格制定の事務局として活動し、国際標準化活動の普及にも多大な貢献をした。
若林 良明 氏	三菱電機株式会社	延べ3年間に渡り、IEC/TC9の電力変換器と電動機の組合試験方法規格の国内作業部会およびエキスパートとして活躍しており、日本の意見を織り込むことに貢献している。また、電力変換装置のJIS原案作成の幹事として大きく貢献した。

JIS: Japanese Industrial Standards (日本工業規格)の略。工業標準化法に基づき制定される日本の国家規格。
IEC: International Electrotechnical Commission(国際電気標準会議)の略。電気・電子分野の国際規格を制定。
TC9: Technical Committee 9の略。IECの鉄道用電気設備とシステムに関する専門委員会。

※平成25年度 標準化活動奨励者表彰は応募者なし

鉄道技術標準化調査検討会について

- ・平成12年10月、我が国鉄道の国際規格戦略の検討や国際規格に関連する国内規格制定の検討等を行い、鉄道の国際規格審議団体や国内規格作成団体の活動を支援するため、鉄道界の合意により「鉄道技術標準化調査検討会」(設置当初の名称は、国際規格調査検討会。平成19年7月に改称。)が設置された。
- ・事務局は、国土交通省、(公財)鉄道総合技術研究所が担当。

鉄道技術標準化の必要性について

1. 標準化の必要性

鉄道事業者が具体的な仕様を定める際に引用できる規格を整備することにより、信頼性や安全性向上、利用者サービス向上、環境保全の進展等、事業の発展に寄与。

2. 国際規格対応の必要性

国内の各種システムや考え方が国際規格に盛り込まれないと、メーカーにおいては、国際規格に準拠していない製品の国際競争力の低下、鉄道事業者においても、国際規格に準拠していない製品の調達が困難になり、新技術の導入が阻害されたりコストが増加するといったおそれ。

3. 国内規格との整合の必要性

国際規格が発行された場合、国内の強制・任意規格の制定や改定を行う際、国際規格を基礎とすることが、WTOのTBT協定(貿易の技術的障害に関する協定)で義務化。

したがって、国内の優れた鉄道システムを維持する観点からも、日本の鉄道システムを規格の形で海外に発信することが重要。